

自己表現型入試 評価方法

1 考え方

- 「広島県の 15 歳の生徒に身に付けさせたい力」である「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」が、どのくらい身に付いているかを評価する。
- 「評価の観点」は、①～③の3つする。
- 面接官からの質問に対する受験生の回答も評価に含める。
- 「評定」は、4点を基準とし、評価の観点ごとに、5点（十分に満足できる）、4点（おおむね満足できる）及び3点（努力を要する）のいずれかで評価する。

2 配点 面接官1人当たり15点満点（3観点×5点満点） ※面接官は2名=30点満点

3 評価表

評価の観点			
	① 自己を認識する力	② 自分の人生を選択する力	③ 表現する力
評価規準			
	自分は何が好きなのか、自分はどのような人間なのかなど、自分自身のことを認識することができている。	自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができている。	自分の意見をまとめ、相手に理解してもらえるように、言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら伝えることができている。
評定	評価及び評価の視点		
5点	<u>十分に満足できる</u> 「自分自身のことを認識する」ことが十分にできている。	<u>十分に満足できる</u> 「自分で考える」「自分で選択する」「自分の意志で決める」ことが十分にできている。	<u>十分に満足できる</u> 「相手や場面に応じて」「言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら」伝えることが十分にできている。
4点	<u>おおむね満足できる</u> 「自分自身のことを認識する」ことがおおむねできている。	<u>おおむね満足できる</u> 「自分で考える」「自分で選択する」「自分の意志で決める」ことがおおむねできている。	<u>おおむね満足できる</u> 「相手や場面に応じて」「言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら」伝えることがおおむねできている。
3点	<u>努力を要する</u> 「自分自身のことを認識する」ことができていない。	<u>努力を要する</u> 「自分で考える」「自分で選択する」「自分の意志で決める」ことができていない。	<u>努力を要する</u> 「相手や場面に応じて」「言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら」伝えることができていない。